

『夢の継承』～ ひたむきに進む ～

2023 年 8 月 18 日 wife が小学校の校長を務めている CAJ (Christian Academy in Japan) での夕食会に出席した。CAJ には、2008 年から『東久留米がん哲学外来』の会場を提供して頂いている (画像)。大変心が休める場でもある。ただただ感謝である。

8 月 19 日は、2012 年から始めている『お茶の水メデイカル・カフェ in OCC』 (画像) に赴いた。個人面談も 3 組あり、大変有意義な時であった。『矢内原忠雄記念 本郷通りカフェ』主催の『訪問看護ステーション』の看護師が 2016 年に作成された『樋野先生の相関図』を、当日プリントして頂いた (画像)。

東大総長 (1951~1957) であった矢内原忠雄 (1893-1961) の講演記録が鮮明に蘇ってきた。

【『私が どういうばあいにも 恥じることなく、いつものように 今も大胆に語って、生きるにしても、死ぬにしても、一』 (ピリピ 1 章 20 節)、『ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、一』 (ピリピ 3 章 13 節)】。筆者は、若き日より、矢内原忠雄の書物を、夜を徹して、精読したものである。

筆者が、若き日に『南原繁 著作集第 9 巻』 (1973 年 岩波書店発行) の【『矢内原忠雄君』 (1961 年 12 月 28 日、東大講堂の告別追悼式に於いて 友人代表として南原繁が述べたもの) 『一本郷通りに ささやかでも 書店を開いて、そこでは コーヒーも飲めるようにし、学生の読書相談に応じようかと、本気に考えたこともあったという。それほど終始、学問と学生を 愛した君であった。』 (381 ページ)】の文章を読んだ。矢内原忠雄は『本郷通りに、悩める学生の為に、カフェを開くのが、夢』を果たせずに、1961 年 12 月 25 日に胃癌で逝去した。2008 年に『がん哲学外来』を始めたきっかけは、『矢内原忠雄の夢の継承』の為でもあった。南原繁 (1889-1974)・矢内原忠雄は、戦後の東大総長を務めた (12 年間)。筆者は 19 歳の浪人時代に、南原繁の教え子に邂逅し、今は、南原繁研究会の代表を仰せつかっている。本当に、「人生の邂逅」の不思議さを実感する、今日この頃である。

東久留米がん哲学外来 15周年記念会

『言葉の処方箋のエッセンス』 ～安心できる居場所～

一般社団法人がん哲学外来 名誉理事長
順天堂大学名誉教授・新渡戸稲造記念センター長・恵泉女学園理事長
樋野興夫 講演会

2023年 10月22日(日) 受付: 12時45分～ 13時
クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン (多目的室) 東久留米東口徒歩5分

東久留米がん哲学外来は、15周年を迎えます。

講演会の後は、日頃の感謝を込めて、15年を振り返り、皆さんと一緒に思い出づくりのひとときを。居心地のよい時間をすごしませんか？

- *参加費 無料 *定員 40名 (要予約)
- *樋野先生との個人面談あり (要予約)
- *申込み: ホームページより必ずご予約ください

東久留米がん哲学外来
ホームページ <https://www.higashikurume-gantetsu.com/>
メール higashikurume.gg@gmail.com

主催: 東久留米がん哲学外来
後援: 一般社団法人がん哲学外来



<がん哲学外来>

お茶の水メディカル・カフェ in OCC

開催予定: 下記は予定であり日程は変更する可能性があります。

*参加の際は必ずお申し込みをお願いします。
(新型コロナウイルスの感染防止のため、定員 35 名と限定させていただきます)

2023年

第14回	1月 7日(土)13:00～
第15回	2月 25日(土)13:00～
第16回	3月 18日(土)13:00～
第17回	4月 22日(土)13:00～
第18回	5月 20日(土)13:00～
第19回	6月 17日(土)13:00～
第20回	7月 15日(土)13:00～
第21回	8月 19日(土)13:00～
第22回	9月 16日(土)13:00～
第23回	10月 21日(土)13:00～
第25回	11月 18日(土)13:00～
第26回	12月 16日(土)13:00～



順天堂大学名誉教授
一般社団法人がん哲学外来名誉理事長
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
樋野 興夫

新型コロナウイルス感染症対策 についてのご協力とお願い

マスク着用、検温、手指の消毒にご協力お願いします。定期的に換気をさせていただきます。

会場: お茶の水クリスチャン・センター



<参加費無料・必ず事前にお申し込みください>

お申込み方法: mail 若しくは FAX でお申し込みください。

Mail: occmedicalcafe2021@gmail.com
Fax: 03-3296-1010

*お申込み時に必ずお名前と当日に連絡のつくお電話番号をお知らせください。

*各回とも開催日の3週間前からお申し込みを受け付けております

二宮 尊徳(にのみや たかのり)は、江戸時代後期の経世家、農政家、思想家。

吉田松陰(よしだしゅういん、文政13年8月4日(1830年9月20日)-安政6年10月27日(1859年11月21日)満29歳没。日本の武士(長州藩士)、思想家、教育者。一般的に明治維新の精神的指導者・理論者・倒幕論者として知られる。私塾「松下村塾」で、後の明治維新で重要な働きをする多くの若者を育てた。「かくすればかくなるものと知りながら やむにやまれぬ大和魂」

勝海舟(かつかいしゅう) / 勝安房(かつ やすよし、文政6年1月30日(1823年3月12日) - 明治32年(1899年1月19日)は、江戸時代末期(幕末)から明治時代初期の武士(幕臣)、政治家、位階勲等爵位は正二位勲一等伯爵。山岡鉄舟、高橋泥舟と共に「幕末の三舟」と呼ばれる。当時、再三暗殺の標的にされたが、一度も自分の刺を血で濡らすことはなかった。「カニ蚤や虱だと思えばいいのさ。肩につかまて、テクリテクリと刺しても、ただ痺いだけだ、生命に関りはしない」。

佐久間象山、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文、大隈重信、板垣退助
坂本竜馬、西郷隆盛
武士道サムライ精神

吉野 作造(よしの さくぞう 1878年(明治11年)1月29日 - 1933年(昭和8年)3月18日)は、大正時代を中心に活躍した日本の政治学者、思想家である。東京帝国大学で教壇に立ち、大正デモクラシーの立役者となった。1878年(明治11年)、宮城県志田郡大村96番地(現・大崎市古川十日町)に木綿織物の原料を扱う糸綿商吉野屋の長男として生まれた。

矢内原 忠雄(やないわら ただお、1893年(明治26年)1月27日 - 1961年(昭和36年)12月25日)は、日本の経済学者・植民政策学者。東京大学総長。日本学士院会員。正三位勲一等瑞宝章。愛媛県今治市に四代続いた家系の医者の子として生まれる。旧制第一高等学校に在学中、無教会主義者の内村鑑三が主催していた聖書研究会に入門を許され、キリスト教への信仰を深めていった。東大に入学後は、吉野作造の民本主義や、人道主義的な立場から植民政策を講じていた新渡戸稲造の影響を受け、思想形成を行っていた。

山極 勝三郎(やまぎわ かつさぶろう、1863年4月10日(文久3年2月23日) - 1930年(昭和5年)3月2日)は、日本の病理学者、人工痘研究のバイオニアとして知られる後に同郷の医師である山極吉哉の養子となり、ドイツ語を学びつつ医師を目指した。1885年に京大医学部(のちの東京帝大医学部)に入学し、卒業時は首席という成績を残す。1891年に東京帝大医学部助教授となる。1892年からドイツに留学し、帰国後の1895年に東京帝大医学部教授に就任。専門は病理解剖学。特に癌研究では日本の第一人者であった。1915年には世界ではじめて化学物質による人工癌の発生に成功。1919年に帝國学士院賞を受賞。1923年には帝大を定年退官。1928年にドイツからノルドホフ・ユング賞を受賞。1930年、肺炎で逝去す。

菅野 晴夫(すがのはるお、1925 - 昭和後期-平成時代の腫瘍学者。大正14年9月13日生まれ。癌研究会癌研究所病理部長をへて、昭和48年所長。のち同癌化学療法センター所長。白血病細胞の再分化の研究などで知られる。平成15年文化功労者。18年癌研究会顧問、山形県出身。東大卒。

新島 襄(にいじま じょう、天保14年1月14日(1843年2月12日) - 明治23年(1890年1月23日)は日本の宗教家、教育者、学位は理学士。同志社英学校(後の同志社大学)を興した。明治六大教育家の1人に数えられている。天保14年(1843年)、江戸の神田にあった上州安中藩江戸屋敷で、安中藩士・新島民治の子として生まれる。1867年にアメリカのアーモスト大学に入学。日本人として、はじめて学士号を取得。また、在学中に、のちに札幌農学校教頭となるウィリアム・スミス・クラークから科学の授業を受けていた。この縁でクラークは来日することとなった。

新島 八重(にいじま やえ、弘化2年11月3日(1845年12月1日) - 昭和7年(1932年)6月14日)は、江戸時代末期(幕末)から昭和初期の日本の女性、新島襄の妻。

新渡戸 稲造(にとべいなぞう、1862年9月1日(文久2年8月8日) - 1933年(昭和8年)10月15日)は、日本の教育者・思想家。農業経済学・農学の研究も行っていた。国際連盟事務次長も務め、著書 Bushido: The Soul of Japan(『武士道』)は、流麗な英文で書かれ、長年読み続けられている。東京女子大学初代学長。東京女子経済専門学校(東京文化短期大学・現・新渡戸文化短期大学)初代校長。「知的協力委員会」(1922年)は、当時、国際連盟の事務局次長であった新渡戸稲造が、事務を担当し、12名の有識者メンバーからなり、議長は、ベルグソン(哲学者)であり、アインシュタイン、さらには、キューリー夫人も、メンバーである。

新渡戸稲造は、第一高等学校の校長の時(1906-1913)、「学生は、校長室は教員が高いので、相談に来づらい」と、学校の近所に、木曜日の午後、カフェの場所を設定し、そこには、当時、第一高等学校の学生であった矢内原忠雄も、参加していた。矢内原忠雄は「本邦通りに、悩める学生の為に、カフェを開くのが、夢であったが、夢葉たせずに開校で亡くなった。

樋野 興夫(ひのおきお) 順天堂大学教授プロフィール 順天堂大学医学部 病理 腫瘍学教授、学校法人恵泉学園理事。1954年島根県生まれ。癌研病理部、米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、米国フォックスチェースがんセンター、癌研実験病理部長を経て現職。日本家族性腫瘍学会理事長、日本癌学会理事、日本肝臓学会の評議員ほか、第99回日本病理学会総会会長を歴任。肝臓および腎臓の研究で、日本癌学会奨励賞、日本実験動物学会賞、癌研究会学術賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、「新渡戸南原基金」第一回「新渡戸南原賞」、「アスベスト 中皮腫外来」で東京医師会賞などを受賞。2008年1~3月順天堂大学医学部附属順天堂医院で「がん哲学外来」を開設、予約が殺到する。その後、都内や横浜で同外来を開設し、各地で好評を得る。夢は、『人のサムライ=勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三』と天國でカフェを開業すること。

がん哲学の源流
Alfred G. Knudson (1922年8月9日-2016年7月10日)はアメリカの医師、がん遺伝学に特化した遺伝学者。

吉田 富三(よしとみぞう、1903年(明治36年)2月10日 - 1973年(昭和48年)4月27日)は、日本の病理学者。福島県石川郡淡川村(現・浅川町)生まれ。ラットの腹水癌である吉田肉腫と腹水肝癌の発見で実験腫瘍学に新たな扉を開いた。財団法人癌研究会癌研究所長、日本学士院会員、日本学術会議会員、副会長(第6期)、国語審議会委員(第1-6期)などを務めた。『対話学がない』

ウィリアム・スミス・クラーク(William Smith Clark、1826年7月31日 - 1886年3月9日)は、アメリカ合衆国の教育者。化学、植物学、動物学の教師。農学教育のリーダー。札幌農学校(現北海道大学)初代教頭。同大学では専門の植物学だけでなく、自然科学一般を英語で教えた。この他、学生達に聖書を配り、キリスト教についても講じた。のちに学生たちは「イエスを信じる者の誓約」に次々と署名し、キリスト教の信仰に決意をした。日本ではクラーク博士として知られる。

内村 鑑三(うちむら かんざう、万延2年2月13日(1861年3月23日) - 昭和5年(1930年)3月28日)は、日本のキリスト教思想家・文学者・伝道者・聖書学者。福音主義信仰と時事社会批判に基づく日本独自のいわゆる無教会主義を唱えた。「代表的日本人」の著者でもある。万延2年(1861年)、高崎藩士・内村宣之とヤツの6男1女の長男として江戸小石川の武士長屋に生まれる。

斎藤 宗次郎(さいとう そうじろう、1877年2月20日 - 1968年1月2日)は、岩手県東和賀郡笹間村(現・花巻市)出身のキリスト教徒。無教会主義キリスト教徒である内村鑑三の最も忠実な弟子の一人で、その死に至るまで身の回りの世話をした。また、『雨ニモケズ』のモデルとも言われている。

南原 繁(なんばら しげる、1889年(明治22年)9月5日 - 1974年(昭和49年)5月19日)は、日本の政治学者。1907(明治40)年7月、第一高等学校入学(新渡戸稲造校長)。1910(明治43)年7月、東京帝国大学法科大学政治学入学。1911(明治44)年内村鑑三の聖書講義に加わる。東京帝国大学の総長を務めた(1945~1951)。東京大学名誉教授。

21世紀の新渡戸稲造